教育委員会だより

No.100
2015.8.15
教育委員会事務局
☎62－3111
子ども育成課
スポーツ推進室
人権政策課
市民学習支援課
文化交流課

小野澤暢大（ようだい）君が全国中学校柔道大会に出場

7月19日に開催された長野県中学校総合体育大会柔道、男子60キロ級で優勝した城南中学校3年生の小野澤暢大君（飯山地区）が北信越中学総体、全国中学校柔道大会を控えた7月28日、市長を表敬訪問しました。

市長との対談の中で小野澤君は、「県大会での優勝は嬉しさとともに周りの人への感謝が込み上げた。でも県優勝は通過点、北信越で優勝、全国でも上位入賞を狙いたい。将来は東京オリンピックに出場できるような選手を目指したい」と頼もしく意気込みを語ってくれました。

足立市長と手の大きさを比べる小野澤暢大君

8月4日、福井市で開催された北信越大会では準優勝の実績を残しました。全国大会は函館市で8月17日に開催されます。

野菜いっぱい採れたよー食べたよ！（木島保育園）

ここ3年ほど『豊かな食と生きる力を育む』ために、家庭や地域の方のご協力を得ながら、全園児が3カ所の畑で主体的に野菜を作り合い、食べ合っています。

苗床作り・苗買い・水あげ・草取り・害虫退治等で大切に育てた13種類の夏野菜が、今収穫の時。「トマト赤い！」と見つけて採る嬉しそうな姿。「お願いします！」と給食室に届ける自慢そうな姿。給食やおやつに出ると喜び、苦手な物も食べます。

自分たちの野菜のために努力し、思いやり、協力する姿…一人ひとりの成長を大切に、秋野菜の準備もそろそろです。

ふるさと学習副読本「正受老人物語」が完成

ふるさと学習で正受老人を学習するための副読本「正受老人物語」が完成しました。

正受老人については「正受老人を看よ」が広く読まれてきましたが、発刊が古く、小学生・中学生には理解が難しい面があるため、飯山市出身の先生方が平成24年に発刊委員会を設立し、編集を重ねてきました。

この「正受老人物語」は、市内小学6年生と中学2年生のふるさと学習の時間で活用していきます。

飯山市青少年健全育成運動強化月間の取組

7月に全国一斉に実施された「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に合わせ、飯山市においても関係団体による青少年の健全育成や非行防止のための取り組みが行われました。

青少年への愛の声かけ運動　7月1日㈬

「飯山市青少年育成市民会議」では「社会を明るくする運動実行委員会」と合同で街頭補導活動を行いました。朝はJR飯山駅など3駅、夕方は市内大型店3店舗において啓発用ティッシュとリーフレットを配布しながら青少年健全育成への協力を呼びかけました。

7月1日のJR北飯山駅前の様子

合同巡回補導活動　7月8日㈬

「飯山市青少年育成補導員会」では飯山警察署と合同で、パチンコ店を含む秋津地区の大型店などの巡回補導活動を実施しました。各店舗において青少年健全育成への協力依頼や、有害図書などを含めた有害環境浄化のためのチェック活動も行いました。

出発前打合せの様子

いきいき男女共同参画

「女性と市長とのふれあいトーク」が開催されました

市では、女性の声を市政に届け、住みやすい「まち」にするため、女性グループに市長との懇談会開催を呼びかけています。7月28日㈫いいやま女性センター未来において、子育てサークル「リトルスター」の皆さんと子育て中の女性が6名参加し、日頃市政に対して感じていることなどを市長に届けました。懇談で出された主な意見を紹介します。

■男性保育士は子どもに人気があるので、もっと増えればいい。子どもも体力がついてくると男性の先生が多様なことをしてくれる。■お泊まり保育を実施してほしい。■子ども3人欲しいと思っている人はたくさんいるが、経済的な面や年齢、仕事がネックになり産めない。子どもが小さいと、熱が出たりしたときには迎えに行かなければならないので、飯山で働きたいが、「小さい子がいると働けません」と言われてしまう。核家族では働けない。女性にとって仕事を探すのは難しい。私たち世代の共通な問題。■働きたいが、ほとんどの企業は年齢制限がある。特技や才能を持っているお母さんたちがたくさんいるのに年齢により働くことができず、もったいない。子育てにはお金がかかる→働かなければならない→働く場がない→出産を諦めてしまう、という悪循環に。■市で運営する就職先等があればいい。人材バンクみたいなものでも。■飯山に家を建てたいが、市内に住んでいる者への補助がない。人口減対策としても他市等への流出をふせぐ取り組みが必要。■新生児はオムツの量が多いのでゴミ袋がすぐに一杯になる。せめてオムツだけでも別袋で無料で回収してほしい。都会ではゴミ回収が無料だったり、オムツを捨てる別の袋がある。■市からの出産祝いはアルバムではなく、選択ができたり、実用的なものがいい。商品券とか。■プレミアム商品券について他市では、子育て世帯が優先的に購入できた。子どもがいると長時間並べない。■市内の飲食店等ではオムツを替えられるスペースのあるところが少ない。店舗等に促してほしい。■インフルエンザの予防接種を保育園や学校での集団接種にしてほしい。■ママサポの対象年齢を1歳半くらいまでにしてほしい。せっかく仲良くなったお母さんと疎遠になってしまう。■子育て支援センターは、お母さんの交流の場にもなるよう、親同士をつなぐ場にしてほしい。■不妊治療に関しての補助等の情報提供をしてほしい。■子育て中の親がストレス発散できる場も欲しい。夜のママサポみたいな、託児つきの立食パーティーの企画とか。たまには親も褒めてほしい。□懇談を終え、市長から、子育て世代の方々から貴重な意見をいただき有意義な懇談となった。出された意見が反映できるよう検討していきたい、と話がありました。

人権学習シリーズ

人の気持ちを思える子を願って

しろやま保育園長　芳川　瑞枝

春は新しい出会いの季節です。家庭では家族全員に手をかけてもらい、愛情をたっぷり注がれすくすくと育ってきた子どもたちにとって保育園は社会生活への第一歩です。

集団生活では興味のある遊具、道具は自分一人だけの物ではありません。同じ玩具に二人で手をかけて引っ張り合っている姿がこの時期よく見られます。二人とも一歩も譲りません。そしてどちらかが負けて、泣いて、悔しくてトラブルに発展してしまうこともあります。保育士はお互いの気持ちを代弁して伝えます。「○○ちゃんは、玩具をとられてどんな気持ちだったかな？」「○○ちゃん（自分）だったらどんな気持ちかな？」等々、年齢に合った分かりやすい言葉を選んで相手の気持ちを考えてみるよう促します。相手の気持ちに立って考える、人を思いやる気持ち、その基礎となるべき心を保育園という集団生活の中で育てるのが保育士の役割の一つです。

最近は、お母さんを困らせるとスマホの鬼から電話がかかってくるそうです。でもスマホの鬼では「どんなことがいけない事なのか」母の気持ちを伝えてはくれないし、脅されてしまうのですから「どうして泣いているのか」、という子どもの気持ちも表現できません。両親の子どもを愛する言葉がけで声を聞いてあげ、教えてあげてほしいです。

家庭と保育園、二つの環境の中、子どもたちはさまざまなことを日々吸収し成長しています。私たち保育士は、子どもたち一人ひとりにていねいに向かい合い、自分の人権感覚をしっかり磨く努力をしていきたいと思います。